

平成21年度

葛飾区生涯学習振興ビジョンの取組内容について

一人ひとりが輝き「元気なかつしか」をつくる

学びと交流による

“ひとづくり・まちづくり”

【取組の方向1】

区民の多様な「学び」を通して元気な葛飾をめざします

(1) かつしか区民大学の開設【生涯学習課】

学びと交流の楽しさを基盤とし、かつしかの特徴や魅力を学ぶ「葛飾学」をはじめ文化・教養、ボランティア、健康、生きがいなど、多様な分野について学ぶ新たな区民の生涯学習の場として、区民大学を開設する。

学習の成果を活かし、学習支援や地域・ボランティア活動等の担い手として活躍できる人材を育成する。

全庁的な連携による講座のほか、区民や団体が参画し企画運営する講座、大学などの教育機関との協働による講座も開設する。

また、区民大学の企画運営への参画や、地域での各種活動の担い手となる人材を「生涯学習マイスター」として認定・登録する制度を設ける。

【平成21年度の実施内容】

かつしか区民大学の試行事業として、全16講座を実施した。主な講座としては、葛飾の特色や魅力、歴史を学ぶ「葛飾学」の講座として「歩いて見る葛飾」、「調べて書く葛飾」、「葛飾のまつり学」を行うとともに、地域の各種活動を担う「人材育成」としては、「子どもボランティア総合講座」や「学校図書館ボランティア講座」を実施した。また、「知識・教養関係」の講座としては「鉄道史講座」、「歴史入門講座」を実施した。

7月に理事会を設置し、理事には学識経験者や区民団体の代表を委嘱し、区民大学の重点方針や講座の分野などについて審議した。第2回理事会は10月に開催し、区民大学の名称や開設準備状況などについて審議し、第3回理事会は3月に開催し、来年度の事業計画等を審議した。

区民大学の名称については、公募し、理事会で協議の結果、「かつしか区民大学」と決定した。

区民企画講座の企画を担う区民運営委員会委員については、公募した結果、31人の応募があり、書類審査、面接により24人を選考し、事前研修(全6回)を実施した。その後、12月に委嘱を行い、以降毎月1～2回委員会を開催して、平成22年度に実施予定の区民企画講座の企画を行った。

また、区民大学の区民への情報提供として、区民大学情報誌「まなびぷらす」を発行するとともに、区ホームページに区民大学のコンテンツを作成・公開した。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
講座実施数	延べ 162 コース	16 コース
受講者数	延べ 13,875 人	2,660 人
マイスター認定者数	延べ 75 人	0 人

(2) わがまち楽習会の実施【生涯学習課】

区民のくらしの向上に役立つテーマの学習や、地域の連帯感を醸成するためのイベントなどを通して、区民が楽しく学び、考え、交流し、仲間づくりをすすめる機会として「わがまち楽習会」を実施する。

地域との関係が希薄といわれる団塊の世代をはじめ、幅広い層の区民に働きかけ、地域の課題に関心をもつ区民を増やし、区民力や地域力の向上につなげていく機会とする。

【平成 21 年度の実施内容】

わがまち楽習会を 4 地域で実施した。そのうち新小岩南地域では、商店や住宅の多いまちを花と緑のあふれた地域にしていくために、区民としてできることを考え実践することを目的にワークショップや講演会、ハンギングバスケット講習会を開催した。その後は地元中学校の協力を得ながら校舎の側道の一部を花とみどりあふれる空間にするため花壇作りの取り組みがすすんでいる。

立石・四つ木地域では、団塊の世代をはじめ中高年の区民の健康増進を図るために、身近な施設で童謡や唱歌を歌う会や落語の鑑賞会を開催したほか、地域を知り郷土かつしかへの愛着を深める目的で地元ウォーキングを実施した。

お花茶屋・亀有地域では、中高年層の地域住民を対象に地元に住む声楽家を講師に迎え、健康増進のために歌うことの意義や声楽の素晴らしさを体験する講習会とコンサートを開催した。

金町地域では、大規模な集合住宅の建設により新住民が増えているなか、この地域の子育て中の保護者と子どもを対象に、大道芸と表現あそびの体験学習に親しむ機会を設け、父親と母親が子どもとふれあい他の家族との出会いやつながりを深めるワークショップを実施した。

地域運営モデル事業は、地域に根ざした事業を地域の手で運営するモデル事業として発案され、20 年度から堀切・新宿両地区の関係者の賛同を得て開始された。両地区とも、地域の関係者でつくる実行委員会、地域事業推進連絡会が定例的に会合を重ね、また事業の素案作り等を行う事務局会議、小委員会も精

力的に活動した。

堀切地区は第2回目となる大凧上げ大会を、地域の町会・自治会、商店会をはじめ多くの関係団体や、新潟市、及び同市の関連諸団体の協力を得ながら開催し、多数の区民が参加する堀切の新たな行事となりつつある。

また新宿地区では、高齢者の脳力トレーニング教室の講習会、老後の生き方を考える講演会のほか、新宿地域の区民が相互に交流を図り、大人も子どもたちも共に楽しみながら地域への愛着を深めることを目的に、「ザ・にいじゅくフェスタ 2009」を初めて開催した。

項目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
実施地区 (団体) 数	延べ 40 地区	6 地区

(3) 郷土と天文の博物館事業の推進【生涯学習課】

郷土と天文の博物館は、生涯学習・教育施設として、幅広い層の利用を促進し、生涯学習・学校教育活動でのより一層の活用を図るため、常設展示について調査・研究を基に展示替えを実施するほか、特別展等では他地域の博物館などと連携・共同展示を進める。

また、収蔵資料の活用を図るため、データベース化をさらに進める。

講座については、体験を取り入れた体験型学習を充実し、プラネタリウム番組の制作では、海外のプラネタリウムや国等の天文機関と連携し、共同番組制作を進める。

【平成 21 年度の実績】

①博物館収蔵資料のデータベース化

葛西城址から出土した中世瓦等について、昨年度までに取り組んできた資料を含め、おおむね 50%の資料をデータベース化した。

②博物館収蔵資料のインターネット公開

長年データベース化してきた博物館収蔵資料について、学校教育の調べ学習での活用をはじめ、いつでも、どこでも、だれでもが活用できるようにするとともに、博物館事業を効果的に広報し、区内外からの来館者を増やすため、博物館独自のホームページを構築し、インターネットによる公開を目指し検討を行った。

③海外プラネタリウム等との共同企画や天文機関との連携した番組制作

平成 21 年 8 月 15 日～16 日に郷土と天文の博物館でプラネタリウムコンサート「ハワイアンの夕べ」を、ハワイのイミロア天文学センターでも 9 月 4 日～5 日に開催した。

プラネタリウム番組の日米共同制作については、イミロア天文学センターと秋のプラネタリウム番組「ハワイ、海と星と」を共同で制作し、10 月 10 日から博物館で一般公開した。

④「かつしか郷土塾」、「かつしか宇宙塾」の開講

「かつしか郷土塾」については、平成 21 年 6 月に区内の小学校 5 年～6 年生を対象に開講した。(1 回 2 時間、全 6 回、6 月-温暖化と地形の変化・古代の食、7 月-伝統産業・今土焼き、9 月-帝釈人車鉄道、10 月-葛西用水、11 月-農業体験・小松菜栽培、12 月-農業体験・小麦栽培)

「かつしか宇宙塾」については、平成 21 年 5 月に区内の小学校 5 年～6 年生を対象に開講した。(1 回 1 時間、全 10 回、5 月-緯度の変化、6 月-自転・公転、7 月-太陽、8・9・10 月-太陽系の天体、11 月・1 月-星の一生、2・3 月-銀河と宇宙)

「かつしか宇宙塾ジュニア」については、平成 21 年 10 月に区内の小学校 4 年生を対象に開講した。(1 回 1 時間、全 6 回)

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
博物館ホームページへのアクセス件数 (年間)	9,000 件	平成 23 年 4 月 HP 開設予定

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
プラネタリウム番組制作数 (*)	延べ 85 本	20 本
児童向け体験学習受講者数	延べ 5,700 人	1,401 人

*うち海外プラネタリウム等との共同企画や天文機関と連携した番組制作数延べ 5 本

(4) 図書館サービスの充実【中央図書館】

区民の一人ひとりの学習活動を推進するため、生涯にわたり自主的な学習を行う社会教育施設としての機能を充実していく。区民の身近な『知の拠点』として、これまでの図書・資料の提供による学習支援に加え、地域が抱える課題

の解決やビジネス、医療・健康、福祉などに関する情報や資料等の情報提供サービスを整える。

また、学校図書館支援、子どもの読書活動の推進などに引き続き取り組む。

平成22年が国民読書年と定められたことを受けて、読書に親しむきっかけをつくる事業を展開していく。

【平成21年度の実施内容】

① ICTの活用と情報収集・提供の充実

ICTの進展は、図書館と家庭、職場、学校をより身近に結びつけ、きめ細やかなサービスの提供を可能としている。図書資料もデジタル対応により、資料収集の対象が格段に広がり、情報の拠点としてICTを活用した公立図書館広域ネットワークや区内外の教育機関との連携による情報資源の活用、提供を進めた。

また、中央図書館では、インターネットやデータベース、CD-ROMが検索できるパソコンを設置し、情報を得る上で、紙ベース以外にも幅広く提供できるようにした。

② 学校教育・子どもの読書活動推進

新指導要領や「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行を踏まえ、学校教育への支援や乳幼児期から青少年期までの読書環境の向上、学校図書館の運営・事業展開に対する総合的な支援を行ってきた。

総合的な学習の充実や読書活動の推進を実現するために、各学校図書館への団体貸出、調べ学習への資料提供をした。また学校図書館との連携を強化し、蔵書のサポートを行うほか、読書活動、教育への教材アドバイスや支援指導員の研修などのフォロー、ボランティアの養成・フォローなどを学校の参画を得ながらサポートしている。

一方、乳幼児期や未就学児童やその親に対し、図書館と児童館、保育園、保健所などとより幅広く連携を取り、読書の楽しさを広め、読書に親しめる環境作りを行っている。

③ 高齢者・障害者サービス

高齢者や障害のある方が快適に利用できる図書館として、10月に開館した新中央図書館では、ユニバーサルデザイン（点字案内図、誘導ブロック、音声案内、文字情報システム、磁気ループ）を採用した。

また、ICTを活用した読書環境の整備として、音声対応の資料検索機、音声・拡大読書機、ハンディキャップ対応パソコンを設置し提供した。サービス面でも、ボランティアの協力により行っている録音図書・点訳図書や、拡大本

の導入、宅配サービスなど、現在行われているハンディキャップサービスの充実を進め、音訳・点訳ボランティアが活動しやすい環境の整備を行った。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
図書・資料の貸出数（年間）	360 万冊	327 万冊
区内の図書サービスを利用したことがある区民の割合（*）	36%	32%

*葛飾区政策・施策マーケティング調査

（５）かつしか地域スポーツクラブの推進【生涯スポーツ課】

身近な地域で、健康で生き生きと暮らすために、年齢や興味・関心・技術レベルなどに応じて、定期的・継続的にスポーツに親しむクラブを育成する。

育成にあたっては、育成検討委員会においてモデル地域を選定し、設立に向けた手法やノウハウの蓄積と課題を検証しながら進め、当面区内7か所への設立を目指し、区民への理解と協力を深めていく。

クラブの運営は区民が主体的に行い、子どもが地域でスポーツをしたり、地域の大人たちが子どもとスポーツをしたり、高齢者がスポーツに親しんだりするなど、区民がスポーツに「する・見る・支える」などさまざまな形で携わり、地域交流や地域貢献を重ねながら、健康・体力の維持増進、地域コミュニティの形成、子どもの健全育成を醸成する。

【平成 21 年度 of 取組内容】

①育成検討委員会(全区的育成活動)

第2回かつしか地域スポーツクラブ育成検討委員会を3月27日に開催し、第2モデル地域「オール水元スポーツクラブ」の設立にともなう「かつしか地域スポーツクラブ認定審査」を行い適格と認める結果を出したほか、第1モデル地域「こやのエンジョイくらぶ」の下半期運営状況について検証を行った。

②第1モデル地域の育成支援

11月に今年度2回目のスタッフ研修会を開催し、クラブスタッフのスキルアップとスタッフ相互の共通認識とコミュニケーション向上を図った。

また、1月からは平成22年度新規プログラム開発に向けて、「元気アップ体操（堀切）」「ヨガ」「キッズチアダンス」の3種目のお試し教室を開催し多くの

参加を得たほか、東京都の連携イベント事業「スポーツ・ディ（バドミントン）」を開催して、定員を上回る 60 人の参加者を得ることができ、次年度の新規プログラムの準備を進めた。

なお、2 月末現在の会員数は 270 人を越え当初予定を大きく上回るクラブ運営が成されており、毎月のクラブ運営委員会では、平成 22 年度クラブ定期総会に向けて、決算・計画報告書、予算・事業計画書の策定に向けて準備を進めている。

③第 2 モデル地域の育成支援

12 月の第 2 回「設立キャンペーン事業」では 9 種目延べ 159 人の参加、1 月の「先行プログラム事業」では 4 種目延べ 262 人の参加、3 月の「入会キャンペーン事業」では 15 種目延べ 599 人の参加を得ることができ、クラブメニューのスタートに向けた地域住民への理解促進と会員獲得に向けた活動を推進させた。

また、クラブ設立準備会では、規約や会費の設定などクラブ運営体制の具体的な検討を進め、3 月に 4 回実施した「入会説明会」では、150 人の入会者を得ることができた。

こうした結果、3 月 27 日に多くの地域関係者を迎え、「オール水元スポーツクラブ設立総会」「記念式典」「記念イベント」を開催した。

なお、平成 22 年度 4 月から、クラブメニュー 15 種目、会員数 201 人の入会者を得て、区内 2 か所目となる「オール水元スポーツクラブ」がスタートした。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
区内で設立されたクラブ数	3 か所	2 か所

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
地域スポーツクラブ加入者数	600 人	470 人

【取組の方向2】

学校と地域が連携・協働し、子どもの育ちを応援します

(1) 学校地域応援団の推進【地域教育課】

学校教育を支援する「学校地域応援団」を各学校に設置し、児童・生徒の学習支援や教育環境の整備、安全活動等に、地域が学校に協力して取り組む仕組みづくりを行う。

【平成21年度の取組内容】

平成20年度は3校（金町小学校、東金町小学校、木根川小学校）でモデル実施し、平成21年度は新たに7校（柴原小学校、南綾瀬小学校、上平井小学校、本田中学校、南奥戸小学校、高砂小学校・高砂中学校）で設立した。

学校地域応援団の主な活動内容としては、芝生の維持・管理、芝生を活用したイベントの実施、学習支援や図書ボランティア、安全見回り活動、クラブ活動支援など、各学校が地域との協力のなかで行ってきた取り組みを基盤として、それぞれ特色のある活動を行っている。

コーディネーターの交流、情報交換の場と、応援団事業の理解を広めるために、コーディネーターミーティングを1回、研修会を2回開催した。また1年間の総括として活動報告会も開催し、木根川小学校、東金町小学校の校長、地域コーディネーターからの報告を受け、学校地域応援団事業についての理解を広めることができた。

項目	平成25年度目標	平成21年度実績
ボランティア参加者数（年間）	14,000人	6,211人
外部評価アンケート（*）	80%	79.1%

*学校教育アンケート「学校は保護者や地域の人などが積極的に教育活動に関われるように工夫しているか」についての肯定的な回答の割合

(2) 放課後子ども事業の充実【地域教育課】

放課後や土曜日、三季休業中の学校施設を活用し、地域の方々の見守りのもと、放課後子ども事業（わくわくチャレンジ広場）を全小学校で実施し、子どもたちの安全で楽しい遊び場を提供している。活動を通じて子ども同士や地域の大人との交流のなかで、自主性や社会性を育てていく。

現状の子どもたちは、学ぶ習慣や体験しチャレンジする心、ルールを守る心や人間関係を構築する力などに弱い面があり、このような課題に対し、学校教育と放課後子ども事業が連携し、協力し合って対応していくことが必要であることから、教育面に配慮しつつ活動内容の充実を図っていく。

【平成 21 年度の取組内容】

①活動内容の充実

学習・文化・スポーツ推進校について、平成 20 年度から実施した 6 校に加え、平成 21 年度新たに 5 校で導入し、計 11 校となった。

○平成 20 年度から実施している学校（6 校）

柴又小学校、小松南小学校、花の木小学校、綾南小学校、葛飾小学校、上小松小学校

○平成 21 年度から新たに実施した学校（5 校）

南綾瀬小学校、住吉小学校、青戸小学校、本田小学校、上平井小学校

②対象学年の拡大

平成 21 年度は、二上小学校、上平井小学校、小松南小学校、葛飾小学校、花の木小学校の 5 校で対象学年を 3 年生まで拡大し、柴原小学校では 2 年生まで拡大した。

その結果、全学年対象は 4 校、2 年生～6 年生対象が 1 校、3 年生～6 年生対象が 20 校、4 年生～6 年生対象が 24 校となった。

項 目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
児童の登録者数	10,500 人	10,294 人

【取組の方向3】

地域全体で子育て・家庭教育への支援を進めます

(1) 家庭教育への啓発・支援【地域教育課】

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」の実施や「早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー」の作成、ノーテレビ・ノーゲームデーの実施を通して、子どもの生活習慣確立の大切さを啓発していくとともに、保護者の主体的な取組を促していく。また、「家庭教育のすすめ」を作成し、家庭教育の重要性についての啓発普及を進めていく。

さらに、PTA活動への支援や学校地域応援団の取組を活用しながら、保護者相互の交流、学校との協働関係を通して、家庭の教育力向上のための支援を促進していく。

【平成21年度取組内容】

①早寝・早起き、朝ごはんコンサート

「早寝・早起き、朝ごはんコンサート」は7会場、9団体（幼稚園2園、小学校2校、保育園5園）で実施し、延べ1,286人が参加した。

なお、コンサートの実施を希望する団体が多いため、近隣の小学校や保育園が共同で開催も行った。結果、1会場での実施団体数を増やした。

②早寝・早起き、朝ごはん食べようカレンダー

より利用しやすいカレンダーとするため学校、保育園、幼稚園等の関係者による検討委員会を設け、生活点検調査表、コラム、朝ごはんメニュー等の内容の検討を行い、作成し、配布した。また、幼稚園・保育園・小学校職員、保護者を対象に活用状況の調査を実施し、その調査結果を反映させた活用の手引きを作成し、学校、保育園、幼稚園へ配布した。

さらに、中学1年生用のカレンダーを試行として作成した。

○幼児用カレンダー 10,500部

○小学生用カレンダー 24,000部

○中学1年生用カレンダー 4,500部

③ノーテレビ・ノーゲームデー啓発事業

「ノーテレビ・ノーゲーム」を推進するため、子どもの生活習慣向上・家庭教育支援関係者会議において、毎月10日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」と設定するとともに講演会を開催した。また、啓発リーフレットを50,000部作成

し、幼稚園・保育園・小中学校を通して、各家庭へ配布した。

○講演会 参加者 30人

④PTA研修会

PTA活動支援として、広報研修会、小・中学校PTA合同研修会、小・中学校PTAブロック別研修会、区立幼稚園PTA研修会を開催した。

○広報研修会「PTA広報紙づくり入門」 参加者 338人

○小・中学校PTA合同研修会（全5分科会） 参加者 811人

○小・中PTAブロック別研修会（全12ブロック） 参加者 1,768人

○区立幼稚園PTA研修会 参加者 71人

項目	平成25年度目標	平成21年度実績
平日午後9時までに就寝した児童の割合（小学校低学年）（*）	75%	69%
平日午後10時までに就寝した児童の割合（小学校高学年）（*）	60%	56%

*「早寝早起き朝ごはん食べようカレンダーに関する」による児童の生活習慣に関する基礎データ調査

（2）子育て・家庭教育に関する学習機会の提供【地域教育課】

子どもの年齢や発達にあわせた講座の実施をはじめ、保護者や各種団体が行う学習活動を支援することにより、子育て・家庭教育の学習機会の拡大を図っていく。

【平成21年度の実施内容】

①子育て講座

子育て支援部、保健所との連携により1・2・3歳児の子育て講座を実施し、508組延べ1,049人が参加した（1歳児…3会場、2歳児…4会場、3歳児…1会場）。

各コースとも年齢に合わせた子どもの発達や健康、食事や生活習慣、親同士の交流を図ることを目的とした講義とともに、父親の子育てへの参加を促すプログラムを実施した。

②家庭教育講座（小・中学生コース）

「子どもと親のコミュニケーション」を共通のテーマに、「子どもの感情を育てるかかわり方」「子どもの自立を助ける親子のコミュニケーション」「家庭で行う食のコミュニケーション」「携帯電話とインターネット」の全4回の講座を実施し、小・中学生の保護者46人の参加があった。

③子育て・家庭教育応援制度

P T A、父母会、子育てに関わる団体や、サークルが行う自主的な学習活動に講師を派遣した。今年度の派遣団体数は35団体で、内訳は次のとおりである。

〔平成21年度派遣団体数〕

幼稚園5（うち父母会関係3）、保育園20（うち父母会関係2）、

小学校P T A 3、その他団体7

学習会の内容としては、生活習慣、食育、絵本の読み聞かせ、就学前の準備など、家庭教育にかかわる多様な内容を、団体が主体的に決定した。

項 目	平成25年度までの目標	平成21年度実績
子育て・家庭教育講座の参加者数	延べ 5,895人	1,095人
子育て・家庭教育応援制度の利用団体数	延べ 213団体	35団体
子育て・家庭教育応援制度の参加者数	延べ 8,550人	1,740人

【取組の方向4】

生涯学習推進体制の整備を進めます

(1) 生涯学習情報システムの構築【生涯学習課】

区民の生涯学習への参加を促し、学習活動が充実・活性化し、交流が進むように、インターネットを活用した生涯学習情報システムの整備を行う。

区民がいつでもどこでも気軽に、学習機会や施設、人材・指導者、教材等の学習情報が入手でき、かつ実際に活動している団体などの活動や成果にもアクセスできる情報システムを検討し、構築する。

【平成21年度取組内容】

急速に普及したインターネットを活用し、区民に対する生涯学習情報の効率的でかつ効果的な提供方法について検討を行った。

具体的には、他自治体の生涯学習情報システムや、民間企業が開発したシステムの概要等を調査するとともに、区CMS（コンテンツマネジメントシステム：情報管理システム）の平成22年度の更新予定に合わせた区の公式ホームページを活用した学習情報の提供について所管課と協議し、研究を行った。

(2) 中央図書館等の整備【中央図書館】

中央図書館を金町駅南口再開発事業地内に移転し、区内図書館のセンター機能の強化及び、区民の多様なニーズに応えられるよう、開館時間の延長やICTサービスの拡大を進めることで、区民の多様な学習の場を提供する。

専門的な資料や地域資料を充実させ、より高度なレファレンスを提供することで、ビジネス支援や課題解決に向けた生活支援、及び図書館を軸としたボランティア活動の支援を目指す。

また、立石図書館の建替、地区図書館の整備を進めていく。

【平成21年度取組内容】

①中央図書館の整備

10月17日にワンフロア5,000平方メートル、40万冊の収蔵能力を持つ中央図書館を、金町駅南口再開発ビル内に開館した。

中央図書館オープニング月間（～11月8日）に記念講演会や展示などを実施

したほか、引き続き図書館友の会ウィーク（10月25日から11月8日）として「葛飾図書館友の会」を中心とした区民団体による、お話し会や紙芝居、演劇など、様々なイベントを開催した。

地域図書館では、中央図書館の開館に先立ち、9月17日に新図書館システムを稼動し自動貸出機を設置するとともに、中央図書館の開館に合わせて未所蔵資料の予約サービスを開始した。中央図書館では、これらに加えて自動返却仕分機や予約棚システムを導入した。また10月18日からSDIサービス（著者や分野などを登録しておく、その資料が入った際にメールでお知らせするサービス）を開始した。

さらに図書館の新鮮な情報を提供するための図書館メールマガジンを10月14日に配信を開始した（創刊号読者数約800人）。メールマガジンは、平成22年3月までに7回発行した（4月現在読者数1,441人）。

1月～2月には開館記念行事の第2弾として、葛飾にゆかりの方々による講演会を3回開催した。

②立石図書館の整備

立石図書館の改築については、平成23年度の開館に向け、設計が完了し、平成22年4月に建築工事を着工した。（完成予定 平成23年2月末）

なお、改築に伴う休館期間中に資料の予約受付、予約資料の貸出、返却業務のみを行うためのサービスコーナーを開設した。

③地区図書館の整備

中央図書館の開館に伴い、旧葛飾図書館を新宿図書センターと名称を変更し、10月17日に開設した。

また、(仮称)奥戸地区図書館については、南奥戸小学校敷地内に開設することとし、設計が終了した。

項 目	平成 25 年度までの目標	平成 21 年度実績
図書館の整備	新中央図書館の開設	平成 21 年 10 月 17 日に開館
	立石図書館の改築	立石図書館の改築工事着工
	図書センター	新宿図書センターの開設 (平成 21 年 10 月 17 日)
	地区図書館の整備	(仮称) 奥戸地区図書館の設計終了

(3) スポーツ施設のリフレッシュ事業の推進【生涯スポーツ課】

多種多様な区民ニーズに的確に対応できるスポーツ施設を整備する。特に、スポーツやレクリエーション活動の中核施設となっている総合スポーツセンターの改修整備、設備機器の更新を行い、安全で安心して快適に利用できる施設環境を整える。

水元体育館（体育館・温水プール）の老朽化が激しいため、フィットネスパーク整備事業として改築を進める。また、水元中央公園部分も含めたスポーツ公園としての整備を行う。

【平成 21 年度の実施内容】

①温水プール館曲面サッシ等改修工事

10月13日から温水プール館の曲面サッシの解体作業を開始し、プール天井ダクト・照明設備、防災受信盤・中央監視盤更新、受変電装置更新等とともに、2月26日に工事が竣工した。

②フィットネスパーク整備事業の推進

平成 21 年 6 月に基本計画検討委員会を設置した（検討委員会 5 回実施）。

グループヒアリング、アンケート、街角説明会、パブリックコメントなどを実施し、区民や利用者の意見や要望を踏まえながら基本計画検討委員会で議論を進め、平成 22 年 3 月に基本計画を策定した。

項目	平成 25 年度目標	平成 21 年度実績
スポーツ施設の利用者満足度（*）	60%	50%

*葛飾区政策・施策マーケティング調査